

No.

島原トレイルと雲仙岳～泊りは名湯雲仙温泉～ 妙見岳・国見岳・普賢岳


実施日 2023年2月26日(日)～27日(月)

天候 晴れ

リーダー 宮崎 敏男

参加者 石附智江、峯川弘子、佐藤聡美、宮崎敏男 計4名

費用 @41,665円 航空運賃24,540円(羽田・長崎) レンタカー4,500円 宿泊費12,625円(雲仙青雲荘)

タイム 2/26 羽田7:15)長崎空港着(9:15・ソラシト[®]エアSNA031)長崎空港(9:45～10:50)島原港ターミナル(11:00発・秩父浦公園・火砕流最長到達点・吉祥白天橋～島原港ターミナル着(14:00)ホテル青雲荘着(14:50) 泊
2/27 仁田峠(8:45)妙見岳(9:20)妙見神社(9:35)国見分かれ(10:00)国見岳(10:20)国見分かれ(10:40)鬼人谷口(10:54)鳩穴別れ(11:29)立岩の峰・平成新(11:30・昼食)霧氷沢(12:20)普賢岳(12:50)紅葉茶屋(13:20)薊(あざみ)谷～仁田峠登山口(14:00・)温泉(15:00～16:00)空港(18:15レンタカー返却)空港着(18:45・買物、食事、チェックイン先便20:25発・次便21:05・ソラシト[®]エアSNA038)

雲仙三座 5h30m / 8.0 km

↑ ↓ 891 m

2 / 26 (日) 晴れ強風

空港を出た車が諫早市から雲仙市に近づくと、地肌荒々しく山頂ギザギザのひと際大きな山が現れた。

「何あの山！」「まさかあそこを登るの！」

そうあれが雲仙岳です。昨年12月旅で島原街道から見た雲仙岳



に惹かれ、ぜひ登りたいとこぶし会の山行計画として遠征してきたのです。でもあの時見た雲仙岳は雲に隠れ、まさかこんな迫力のある山とは！

今日は島原半島ぐるっと10.5km雲仙ジオパーク体感のトレイルです。

島原港を出て2kmの秩父が浦公園は九十九島と流れ山(山体の残骸)の独特の景観でした。「島原大変肥後迷惑」の言葉で有名な寛生4(1792)年雲仙岳の火山性地震で眉山の山体崩壊が起きてできた景観。見ごたえある海辺の小道でした。

島原半島側から見る雲仙岳は地肌



むき出しの山体と溶岩ドームと急こう配の山です。

1991年5月およそ200年ぶりという大噴火で出来た日本で一番新しくできた山。この時の火砕流最長到達点や復元したわれん川湧水池の一带を見学し、

またこの災害で多くの方がなくな
ったことへ思いを寄せこの地を後
にしました。

2/27 (月) 晴れ

昨日、雲仙岳は風速26mの強風、
ロープウエーは終日運休、しかし
霧氷あり。であったと知る(雲仙
岳HP)今日、快晴無風道路通行
可、霧氷見られるかも！

仁田峠に通ずる道路8:00開門を先
頭で待つ。30分後大駐車場へ。ここ



から妙見岳へ。

ロープウエーを
横目に見ながら8
00から35分程の登
り、所々で諫早
湾の海と島々が
見渡せる。

妙見岳山頂広場

は絶景、最初の全員写真 朝の陽
光に顔も輝く。

次は国見岳へ。国見別れまでの

なだからな道は一変。山は壁とな
って聳え道は
途中鎖場の岩
場となって現
れた。苦労の
山頂は、この
上ない絶景で
我らを迎える。



天草の海と島々、有明海と熊本
阿蘇の山並み、言うまでもない普
賢岳、平成新山の山頂ドームから
の噴煙が青空に一段と白い。

鬼人谷への急降下は止めどない。

普賢岳の北側を半周程も巻いて霧
氷の欠片で氷結した道を踏みしめ



進む。到達し
た立岩の峰、
一段高い展望
所に立つ。こ
こは平成新山

の山頂直下直近の場だ。火山礫に
覆われた山肌、頂上ドームとその
尖塔は噴煙口か。真っ白いガスが
あちこちから噴出している。圧倒
されるが見飽きない。山で昼食は
何回食べたか分からないが、ここ
は間違いなくメダル級。おにぎり
がさらにうまい。

期待した霧氷沢にも霧氷はなか
った。しかしここは冷蔵庫の中の
ように寒い。霧氷のカケラが地表
を覆う谷底で取った写真はCOOL
だった。

山頂まで最後の20
分。普賢岳の山頂石
標と背後の平成新山
の景色はどこか既視
感がある。



さすが普賢岳山頂、
ここには4組の登山者が居て賑や
かだった。「霧氷は冬型気圧配置
だった昨日の昼までだった」と教



えてくれ
た土地の
人。母親
とイケメ
ンの息子
の二人連
れの仲の

いいこと。今日は何かの記念登山かな。岐阜と福岡から来た山ガールさんが山頂写真を撮ってくれた。

山頂を後にして急なゴロゴロ道を下り着いた紅葉茶屋。茶屋はないが秋の紅葉は良さそう。

ここからほぼ水平登山道を40分ほどで仁田峠へ。峠の普賢神社で無事下山と先の噴火災害で亡くなられた方のご冥福を祈り4人で1分間の黙祷。

地球の営みとしての山と、創り出される絶景の数々、それを実感させ体感させてくれる唯一無二の普賢岳であったと思いを深め今回の山行を終えた。

参加者の感想

前日の強風と冷たい風の中ドーンと構える雲仙岳を見上げ登れるのか？と心配もなく今日は雲一つない晴天に恵まれ、長崎の海、島々と噴火後の山肌未だ真新しい平成新山の迫力を目の当たりにすることが出来ました。

昨日は見られたという霧氷は残念ながら今日は木々に見られず、山道一面に落ちた霧氷のカケラがまるで砂糖菓子のように、これも霧氷の雲仙だと感激でした。

雲仙に来てこんなバリエーション豊かな登山もあるのだと、色々楽しかったです。

思いもよらない山に登れてリーダー、皆さんに感謝です。

それと?温泉と食事も最高でした😊
(佐藤聡美)

妙見岳、国見岳、普賢岳と雲仙三座を縦走しました。中では国見岳が一番大変でした。

そそり立つ岩肌を鎖を頼りによじ登りました。しかし山頂に立てば、360度の素晴らしい景色に感動しました。平成新山にももちろん！今回霧氷は見られませんでした。お天気も良く暖かくて本当に助かりました。思い出に残る山行になりました。リーダーをはじめ皆さんにお世話になりました。温泉も最高でした。また行きたいです。(石附智江)

雲ひとつない青空の中、雲仙三座を上ることが出来てうれしいです。特に噴煙の平成新山を間近に見て、ただただ驚きでした。雲仙の湯も楽しみ雲仙岳満喫の山旅でした。皆さんお世話になり有難うございました。(峯川弘子)

